

ポストコロナ期の集落の未来 ～ローカルコモンズの役割は何か～

■日時 2023年7月8日（土）13:00～16:30（開場12:30）

■会場 東京大学弥生講堂・一条ホール（※会場参加のみ、WEB配信はありません）

東京都文京区弥生1-1-1・東京メトロ「東大前」下車・「農正門」

■参加費 2千円（会場受付時現金にて）■定員 250名

■主催 特定非営利活動法人 中山間地域フォーラム

中山間地域政策の核となる中山間地域等直接支払制度は、開始から20年を超えて、制度に取り組んできた集落住民の高齢化と減少が進み、農地の担い手への集積にも限界が見えつつある。

日本の農村は、集落レベルで維持管理するための知恵や仕組みを、ローカルコモンズとして作り上げてきたが、その持続性を改めて見つめ直す必要が生じている。

他方、この間のコロナ禍での経験により、人口密度の高い都市生活を客観視できるようになり、リモートワークの導入など働き方を見直す機会にも繋がり、田園回帰の潮流はさらなる広がりを見せている。

今回のシンポジウムでは、ポストコロナの時代に向けて、中山間地域の集落の今を捉えながら、その継承のあり方について、これからの集落像や政策へのアプローチを視野に入れて議論したい。



プログラム

13:00 開会挨拶

13:05 解題 シンポジウムのねらいと流れ 法政大学 関司 直也 氏

13:15 特別講演 「中山間地域の現代的価値を考える～ローカルな知恵に学びながら」

中山間地域フォーラム会長 生源寺 眞一 氏

13:45 研究報告 「地域づくり～集落自治の枠組みを問い直す」 徳島大学 田口 太郎 氏

14:05 休憩

14:15 現場報告（20分×3）

1. 「集落の教科書」づくり：NPO法人テダス（京都府南丹市）田畑 昇悟 氏

> 「集落の教科書」づくり、ローカルコモンズの棚卸しの実践と現場の動き等について

2. 松川町の取り組み：長野県松川町産業観光課 宮島 公香 氏

> 遊休農地を活用した一人一坪農園、有機農業の展開、学校給食への供給等について

3. 高知県における「小さな集落活性化事業」：高知県中山間地域対策課長 安藤 優 氏

> RMO設立と小規模集落対策を目指す高知県の取組等について

15:15 休憩・質問集約

15:20 パネルディスカッション：ポストコロナ期における集落の未来を語る

〔進行・東京大学 西原 是良 氏〕

16:30 閉会挨拶

※プログラムは都合により予告なく変更することがあります。

申込み・お問い合わせ

中山間地域フォーラムホームページの専用フォームからお申し込みください

（お問い合わせもHP「お問い合わせ」コーナーをご利用ください）

<https://www.chusankan-f.org>

【締切り】 7月5日（水）

取得した個人情報は、シンポジウム等の運営目的以外には使用いたしません。

